



目標は囲碁の全国大会優勝 日本一の小学生になりたい

森 綾音さん(大府小5年)

8月20・21日に日本棋院で開催された第42回文部科学大臣杯少年少女囲碁大会全国大会(以下、全国大会)の小学生の部に初出場した森綾音さん。3戦して成績上位者が本選に進める予選リーグで、1・2戦目に白星を挙げ、3戦目で強豪に敗れ、惜しくも本選進出を逃しました。「初めての全国大会は、言葉で言い表せない緊張感と楽しさがありました。全国のレベルの高さを痛感したので、今回の経験を生かして、たくさん勉強してもっと強くなりたいです」と大会を振り返ります。

森さんは、アマチュアの囲碁世界大会で3位の入賞経験がある父親の影響により、6歳から囲碁を始めます。大府と名古屋の囲碁教室に通い、楽しんで囲碁を打っていた森さんに、1年たったある日、転機が訪れます。「囲碁教室で詰め碁のテストを受けたとき、他の子はすんなり解けていたのに自分は全然解けません。他の子との実力差を実感して、もっと勉強しようと思いました」と悔しさを糧に本格的に囲碁に打ち込む決意をします。それからは毎日2時間、詰め碁を解き、いろいろな人の対局を重ね、囲碁と真剣に向き合う日々を過ごしました。その努力が

報われ、森さんは、6月6日に開催された県大会で見事優勝し、全国大会への切符をつかみました。

7歳から本格的に囲碁にのめりこむようになった森さんは「囲碁を通して、いろいろな人とつながることが出来ます。対戦や練習で仲良くなり、他県に友達が何人もできました」と囲碁を通して得たつながりも楽しさの一つだと話します。

「囲碁は、自分に自信や勇気を与えてくれる大切な存在」と話す森さん。その魅力について「小さな子どもからお年寄りまで、年齢を問わずみんなが楽しめるゲームです。いろいろな人と関わられるのでとても楽しいです」と笑顔で話します。今後については「来年こそは全国大会で優勝して、日本一になりたいです。そのためにも、たくさん打って、経験値を上げていきたい」と目を輝かせます。勝敗よりも一生懸命に打つことを心掛ける森さん。日本一への夢に向かって、一歩ずつ、階段を上がっています。



▲プロの囲碁棋士に指導を受けている森さん

cover

旅する蝶「アサギマダラ」が今年も大府に来てくれました。ニツ池セレストナに飛来したアサギマダラの中には、福島県から来た個体もいることが分かりました。大府からどこへ行く旅の途中だったのでしょうか。ロマンの塊ですね。

